

# 平成27年度 決算 審査 のあらまし

平成27年度一般会計及び10特別会計決算等のあわせて11認定議案(総額2606億8308万4130円)は、9月27日に設置された決算特別委員会において9月28日、29日、30日、10月3日、4日、5日の計6日間にわたり審査が行われました。

その結果、10月7日の本会議で全決算が可決及び認定されました。

ここでは、決算特別委員会の審査の概要をお知らせします。

## 平成27年度決算特別委員会委員

委員長	脇 礼子	副委員長	原田 伴子
委員	山内 幹郎	委員	西 智
〃	竹村 雅夫	〃	堺 英明
〃	友田 宗也	〃	阿部すみえ
〃	東木 久代	〃	吉田 淳基

理由としては、東日本大震災以降に断水時の非常用の対応として設置件数がふえる傾向にあったが、平成25年度をピークに設置件数が落ち着いたためと考えている。

補助件数をふやすための取り組みとしては、広報やホームページでの周知、エコライフアドバイザー派遣事業でのPR、8月1日の水の日にあわせたふじさわエコ日和ホームページでの特集など、工夫した周知を行ってきた。また、28年度については、各戸に配布したエコライフハンドブックにおいても雨水貯留槽について紹介している。

今後についても、夏の猛暑前の時期に合わせて広報でPRするなど、工夫した周知啓発に努めていきたいと考えている。

## 固定資産評価審査委員会 委員の選任等に同意

○固定資産評価審査委員の1人が平成27年10月7日をもって退職したことに伴って、補欠委員を任命することについて、議会の同意を求めた。任期は28年10月1日から31年9月30日までの3年間。

○教育委員会委員の任命について、藤沢市教育委員会委員の1人が平成28年9月30日をもって任期満了となるため、委員を選任することについて、議会の同意を求めた。任期は28年10月1日から29年9月30日までの1年間。

○市在任  
・大津邦彦氏(新任、藤沢市在任)  
・藤沢市の人権擁護委員候補者の推薦について  
藤沢市域の人権擁護委員の4人が平成28年12月31日をもって任期満了となるため、新たな候補者を推薦することについて、議会の意見を求めるもの。

○市在任  
・小村陽子氏(新任、横濱市在任)

## ふじさわ元気バザール

### 継続的に効果が出る内容を検討 他イベントとの差別化及び周知を図る

**質問** 平成27年度に行われた元気バザールの成果と今後の方向性について聞きたい。

**答弁** 平成27年度の元気バザールは2日間の開催としたことや、クーポン券つきのカタログの作成、店舗までの地図やクーポンが表示されるスマートフォンアプリの作成などの取り組みから、来場者及び出店者に対するアンケートにおいて、高い評価を受けた。官民一体で経済界を盛り上げるイベントを実施していることをアピールできたことが成果だと感じている。

今後は他のイベントとの差別化と元気バザールの認知度向上を図り、また、継続的に効果が出る内容としていきたいと考えている。

28年度については、10月



地域の店舗が集い、市民が主役の産業振興を図るふじさわ元気バザール

## 公園の健康遊具 利用者増加策は

**質問** 公園に設置されている健康遊具は、健康づくりに非常に効果的であると考

えているが、利用者増加に  
向けてどのように取り組んでいくのか聞きたい。

**答弁** 公園は、身近な場で健康づくりを行うことがで  
きる社会的な資源の一つと  
認識しており、平成27年度  
については、公園内の健康  
遊具を活用した健康づくり  
教室を4回実施した。その  
中では、健康遊具の活用方  
法とともに、軽体操やウォ  
ーキングなど、安全に体を  
動かすさまざまな方法を紹  
介している。今後について  
も、公園で体を動かす習慣  
をつけてもらうための普及  
啓発をしていきたいと考  
えている。

また、健康遊具の活用方  
法を地域に周知していくた  
り、充実した相談体制につ  
ながったと考えている。

一方で、2人で約120  
ケースを担当しており、1  
ケースごとに、面談、家庭  
訪問、関係機関との連携、  
ケース会議などの複数回の  
対応が求められており、一  
人一人の教育的ニーズに応  
じた支援を行うためにも、  
増員について検討する必要  
があると考えている。

**質問** 雨水貯留槽の普及促進に当たって、設置補助件数が下がってきている

**答弁** 雨水貯留槽の設置補助件数が下がってきている  
理由として、東日本大震災以降に断水時の非常用の対応として設置件数がふえる傾向にあったが、平成25年度をピークに設置件数が落ち着いたためと考えている。

補助件数をふやすための取り組みとしては、広報やホームページでの周知、エコライフアドバイザー派遣事業でのPR、8月1日の水の日にあわせたふじさわエコ日和ホームページでの特集など、工夫した周知を行ってきた。また、28年度については、各戸に配布したエコライフハンドブックにおいても雨水貯留槽について紹介している。

今後についても、夏の猛暑前の時期に合わせて広報でPRするなど、工夫した周知啓発に努めていきたいと考えている。

ワークシヨップについては、約2時間の実施では時間が不足するほど活発に議論がなされ、非常に効果的な手法であると考えており、今後も近隣街区公園の整備に当たっては、ワークシヨップを開催し、意見を集約することが必要であると考

## 近隣街区公園の整備 住民の意見を集約

**質問** 明治地区の折戸公園ワークシヨップの開催内容と効果について聞きたい。

**答弁** 折戸公園のワークシ  
ヨップは、地域の方々の意見集約を行い、最終的には公園の基本計画を策定する目的で実施された。折戸公園に近接する3町内会にワークシヨップ開催のお知らせを回覧して参加者を募った。ワークシヨップは、8月11日にかけて3回行われ、各回のテーマを、①地域を見つめて公園作りの方向性を考えよう、②アイデアを出して公園プランを練ろう、③公園のプランを作り上げよう―以上3つを設定し、各回3班に分かれて意見交換や発表などを行った。現在は設計の段階に入っており、ワークシヨップの内容を極力反映し

## 学習支援事業 関係機関と連携

**質問** 学習支援事業について聞きたい。

**答弁** 学習支援事業について、関係機関との連携、家庭訪問、ケース会議などの複数回の対応が求められており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うためにも、増員について検討する必要

## 個別のニーズに応じた支援 スクールソーシャルワーカー 増員について検討する

**質問** 平成27年度からスクールソーシャルワーカーが2

人となったことで派遣実績が増加しているが、さらなる増員に対する教育委員会の考えを聞きたい。

**答弁** スクールソーシャルワーカーが2人体制となり、地域を分担して対応するようになり、相談時間を確保することができるようになったため、結果として早期の対応が可能になった。また、関係機関との連携が密に取れるようになったことやスクールソーシャルワーカー同士の検討会議を持つようになったことなどか

ら、充実した相談体制につながったと考えている。

一方で、2人で約120ケースを担当しており、1ケースごとに、面談、家庭訪問、関係機関との連携、ケース会議などの複数回の対応が求められており、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うためにも、増員について検討する必要

があると考えている。

生活困窮世帯の状況は、直接市に届きにくい面もあることから、さまざまな関係機関と連携し、必要な方に支援が届くように周知していきたいと考えている。

関係機関への周知については、まず学校関係者については、校長会において学習支援事業を含む生活困窮者自立支援制度について紹介している。また、今年度はシルバー人材センターに

## 議員全員協議会を開催

### 藤沢市教育委員会学校給食課職員による 給食費の着服について報告

議員全員協議会は、8月3日に開催され、藤沢市教育委員会学校給食課職員による給食費の着服について報告を受けた。これに対し質疑を行った。

〈市の説明〉

事件の概要については、学校給食課に所属する職員が、平成22年ころから、食材納入業者へ支払う食料費を学校給食会の口座から引き出し、私的に流用していたものであり、8月3日時点で判明している着服額は約6470万円となっている。

事件当時、給食食材のうゆる手段を講じていく。また、食材納入業者に対する支払いについては、当該職員が銀行窓口で行っており、その際に現金を引き出し着服していた。

今後の庁内対応としては、不祥事再発防止策再構築等本部会議の設置や、全職員に対するヒアリングなどを行っていく。また、不祥事の検証方法及び再発防止策が適切であるかを、第三者から評価を受けることで、実効性を高めるしていきたい。